（国語）科（1）学年　年間指導・評価計画

教科の目標
① 社会の生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりするようことができるようにする。
② 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
③ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

学期	月	単元名・学習内容	予定時数	評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
1	4 5 6 7	・ふしぎ ・桜蝶 ・SDGS ・俳句 ・自分の脳を知っていますか ・ベンチ ・全ては編集されている ・昔の古典 ・言葉の小窓 ・漢字の広場 ・文法 ・毛筆 ・意見文、案内文	2 4 3 3 5 4 2 2 2 2 7 6 5	（説明的文章） ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。 ・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使う。 （文学的文章） ・事象や行為、心情を表す語句の量を増やす。 ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使う。 ・語感を磨き語彙を豊かにする。 （詩、短歌、俳句） ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解して使う。 （言語、文法、） ・共通語と方言の果たす役割について理解する。 ・音声の働きや仕組みについて、理解を深める。	（読むこと：説明的文章、文学的文章、詩、俳句、短歌、古典） ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する。 ・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を鋭角にして考える。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える。 ・場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈する。 （話すこと、聞くこと） ・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する。 ・自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考える。 ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。 ・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通手や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめる。 ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめる。 （書くこと） ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。 ・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考える。 ・根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。 ・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える。 ・根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章を整える。	・知識や技能を身につけるために、積極的、計画的に学習に取り組み、課題は期限を守り提出する。 ・学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。 〈目標を設定し、学習したことを活かし、下記のことに取り組む。〉 ・説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 ・小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。 ・紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。 ・互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。 ・本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。 ・伝えるべきことを整理して書く。 ・創作活動を通して、感じたことや考えたことを書く。
2	8 9 10 11 12	・「エシカル」に生きよう ・森には魔法使いがいる ・オツベルと象 ・河童と蛙 ・子どもの権利 ・物語の始まり ・故事成語 ・弁論 ・言葉と社会 ・言葉の小窓 ・漢字の広場 ・読書活動 ・文法 ・毛筆	2 3 5 2 6 5 5 4 2 2 2 2 7 8	・単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解深める。 ・単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など分の構成について理解する。 ・話や文章の構成や展開について理解を深める。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。 ・学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。 （古典） ・音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむ。 ・様々な種類の作品があることを知る。		
3	1 2 3	・言葉がつなぐ世界遺産 ・四季の詩 ・少年の日の思い出 ・地域から世界へ ・発言を結びつけて話合う ・マンガで「物語」を表現する ・報告文 ・言葉の小窓 ・文法 ・毛筆 ・一年間のまとめ	4 2 7 2 4 5 2 2 2 6 2	（書写） ・字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解する。 ・漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く。 ・毛筆使い方、筆の運び方を理解する。 （話すこと、聞くこと） ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わる技術を身につける。 （読書活動） ・読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解する。		
合計			140			